

大きく育て  
若木たち

「親」という字を分解すると、「木」の上に「立」って「見」る、ということになります。つまり親というのは、子どもが一人前になるまで、そばで暖かく見守ってやることその役目とも読みとれるわけです。どの親も、若木（子ども）をまっすぐにすくすくと育てるために、大風に対しては支えをし、虫がつけば消毒をし、病気になるれば看病をして、暖かく見守ってきたことでしょう。

ところで5月3日、市民会館で成人式が行われました。若木から成木へと成長し、花を咲かせ、実をつける時代がやってきたわけです。

雨にも負けず、風にも負けず、大きく育て若木たち。

(写真は、成人式で「市民憲章」を唱和する新成人たち)



4月までの□救急車出勤状況 ■火災状況 ( )内は53年中

- 火災 1 (0)
- 交通 57 (45)
- 労働災害 9 (11)
- 運動競技 0 (0)
- 一般負傷 22 (29)
- 犯罪 1 (0)
- 自損行為 3 (5)
- 急病 102 (91)
- その他 39 (23)
- 建物火災 7 (9)
- その他の火災 2 (3)
- 焼損むね数 19 (11)
- り災世帯数 14 (6)
- 死者 1 (1)
- 負傷者 2 (1)